

台風 10 号の接近及び通過に伴う農作物等の技術対策

(農業戦略課)

1 農産物等への影響と技術対策

(令和6年8月 26 日作成)

作 物	想定される影響	技 術 対 策
水 稻	強風、潮風害	・ 強風期間中は深水管理とし、風が止んだら浅水に切り替える。 ・ 潮風害を受けた場合は、用水管理者と調整の上、深水や水の掛け流しを行う。 ・ 台風通過直後に高温で乾燥した風が吹き、白穂の発生等が懸念される場合は、深水管理により水分補給を行い、稲体の活力維持に努める。
	冠水、海水の流入	・ 極力排水に努める。 ・ 塩水冠水田は極力排水させた後に水を掛け流す。 ・ 冠水被害を受けた稲は、水分調節機能が低下していることから、田を急に乾燥させない。 ・ 登熟期に冠水した場合は、穂発芽等が懸念されるため早めに刈り取りを行う。
	倒伏	・ 湿田で、腐敗・穂発芽の恐れのあるものはできるだけ早く起こすか、登熟状況によっては刈り取ってハザ干しする。
施設園芸 (野菜・花き)	強風等による破損	・ 破損箇所の補修。 ・ 施設園芸における台風・強風対策資料を参照。 (https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/nogyo/1040646/1026979.html)
	冠水・浸水 風雨の吹き込み	・ 排水対策の実施。 ・ 泥の付着がひどいときは噴霧器で洗い流す。 ・ 誘引、支柱の立て直しはなるべく早く行う。
	潮風害	・ 潮風害を受けた場合は、用水管理者と調整の上、なるべく早く水洗いして塩分を流す。 ・ 周年作付けの軟弱野菜で被害が大きい場合、次作の準備を早めに行う。
	通過後の強光、高温	・ 天候の回復により施設内が急激に強光、高温となるため、適切な遮光やかん水により予防に努める。
いちご (育苗ほ)	冠水・浸水、茎葉損傷	・ 排水対策の実施。 ・ 泥土の洗い流し。 ・ 炭そ病の予防。 ・ 肥料分の流亡が考えられる場合は薄い液肥を散布し草勢の回復を促すが、窒素成分の供給過多にならないよう注意する。
すいか	冠水	・ 排水対策の実施。 ・ 泥土の洗い流し。 ・ 炭そ病、つる枯病予防。

作 物	想定される影響	技 術 対 策
スイート コーン	倒伏 冠水	・排水対策の実施。 ・泥土の洗い流し。 ・草勢の回復状況を見ながら追肥（窒素成分量で 2～3kg/10a）。
ね ぎ (白ねぎ) (葉ねぎ)	冠水	・排水対策の実施。 ・泥土の洗い流し。 ・白絹病予防 ・小菌核腐敗病予防 ・軟腐病予防 ・被害が大きい場合はまき直し、作型を変更（白ねぎ）。
さといも	茎葉損傷	・草勢の回復を待ってから追肥と土寄せ。
甘 藷	冠水（早掘り）	・排水対策の実施。 ・泥土の洗い流し。
わさび	土砂の流入	・部分的な流入は正常な部分を通常管理。 ・収穫できるものは早めに収穫し、終わった場所から土砂搬出。 ・大規模流入は直ちに復旧するが、作業安全に十分注意する。
	田の流失	・収穫できるものは早目に収穫する。 ・一部の場合は修復し、被害が大きければ田を作り直す。
露地野菜 (全般)	冠水・浸水	・排水対策の実施。 ・泥土の洗い流し。 ・畝の崩れ、株元の露出、土壌表面の固結がみられた場合、天候回復後に畝直し、株元への土寄せ、畝面の軽い中耕を行う。
	潮風害	・潮風害を受けた場合は、用水管理者と調整の上、なるべく早く水洗いして塩分を流す。
キク及びそ の他の花き 類	冠水	・排水対策の実施による湿害回避。
	潮風害	・潮風害を受けた場合は、用水管理者と調整の上、なるべく早く水洗いして塩分を流す。 ・倒伏した株は早急に立て起こし、茎や花穂の曲がり防止する。 ・折れた茎葉は除去し、適切な薬剤散布等により、病害の発生防止に努める。
柑 橘	折れ枝、裂け枝、 倒伏樹対策	・根元がゆすられた幼木、若木の倒伏樹では、できるだけ早く引き起こして根元を固め、支柱を立てて固定する。根元に十分かん水し、根と土を密着させる。 ・折れ枝や裂けた枝は切除し、切り口に癒合促進剤を塗布する。
	潮風害対策	・潮風を受け葉に塩分が付着した園地は用水管理者と調整の上、6時間以内に 10a 当たり 2 トン程度の散水を行う。 ・落葉した木では、落葉の程度に応じて早期に摘果する。落葉程度が激しい木では、樹勢回復を目的に全摘果する。 ・枝幹の日焼けを防ぐため、日焼け防止剤を塗布、又は散布する。

作 物	想定される影響	技 術 対 策
柑 橘 (続き)	大雨対策	・排水路、排水溝を点検し、排水を徹底する。
	強風対策	・ハウスや防風ネット、マルチ資材を補強する。
	かいよう病対策	・台風の襲来を受けると、葉や果実が傷つき病原細菌の感染率が高まるので、発病が予想されるほ場では、台風通過前に薬剤散布を行う。
落葉果樹	折れ枝、裂け枝、倒伏樹対策、潮風害対策	・柑橘に準ずる。
	収穫対策	・ナシなど、収穫可能な果実は事前に収穫する。
	病害対策	・強風を受け、枝葉、果実に傷がつき病原菌が感染しやすくなるので、台風通過後に殺菌剤を散布する。 ・園地の排水に努めるとともに、落果や腐敗果、落葉を速やかに園外に搬出する。
茶	潮風害	・葉に塩分が認められたら、用水管理者と調整の上、4時間以内に4～5 ^ト /10a程度散水する。
	幼木の被害	・風によって倒伏または幹が回された場合は、早めに土寄せし、地際部を保護する。
	冠水・浸水	・排水溝のゴミを取り除き、排水を徹底する。
家 畜	冠水及び風雨の吹き込み（畜舎）	・家畜の死亡被害があった場合は、速やかに化製場等に搬入するなど適切な処理を行う。 ・雨樋、水路の掃除など実施し排水に努める。 ・冠水した畜舎・設備については、速やかに水洗・清掃、消毒及び敷料の入れ替えを実施する。 ・特に搾乳機器は、消毒等の衛生対策を徹底する。 ・電気機器の使用前には、必ず点検整備を行い、漏電、感電事故対策を行う。 ・水を被った飼料、乾草にカビ、変敗が認められた場合は、家畜への給与を中止し、たい肥化等の適切な処理を行う。
	強風（畜舎）	・畜舎、たい肥舎等の点検及び補修を行う。
	停電	・非常用発電機がある場合には、使用できることを確認しておく。
飼料作物	冠水	・排水不良のほ場では、明きょ等を設置し湿害の防止に努める。 ・コーンなど生育中の飼料作物は、中耕(土寄せ)、追肥を行い、倒伏防止のための栽培管理に努める。